



発行所 東京片貝会  
東京都江東区高橋 5-1-313  
電話 (632) 0156

### 新緑さわやかに

## 第29回 東京片貝会 のつどい

来年は第30回記念総会を予定しています  
気運を盛り上げるためにも、ぜひご出席を

昭和63年5月29日(日)  
東京新潟県人会館にて

好い季節となりました。  
お元気で、若葉の春をお過ごしのことと思います  
会員諸兄姉の変らぬご支援により、いよいよ本年は、設立30年の前年  
という意義あるときを迎えます。郷里の方々をお招きして、みんなで賑  
やかな一日にしたいと思います。  
お誘い合わせになって、お出かけ下さい。

#### 記

- 一、日時 63年5月29日(日) 午後一時(正午より受付)
  - 一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野一丁目13-6)  
営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分  
(銀座線)、JR「御徒町」七分
  - 一、会費 五〇〇〇円(料理・飲み物・果物)
- 出席者全員に、片貝農協より創立四十年を祝し米1kgが贈呈されます。

### 会員皆様のご協力を!

来年創立三十周年を迎えるにあたり

会長 勝又 功

昭和六十四年は、創立三十周年の節目に当ります。  
この機会に、先輩、皆様のご努力とご指導に感謝申しあげ、益々の  
発展を祈念することは、意義深いことと思えます。

この度、役員会で、行事の企画、執行を統轄するために、実行委員  
会を発足することに決定しました。

委員会の構成は、現役員に加えて、卒業年次毎に、一名の推挙をお  
願いすることに致しましたから、ご了承下さい。実行委員会、会員  
の皆様のご期待に添うよう、努力する決意であります。記念行事  
は、全会員の総意が結集されたものでなければなりません。

どうぞ皆様のご意見、ご希望を書面又は電話で、事務局、又は役員  
に、連絡下さいますようお願い致します。(昭和六十四年三月三十一日  
までに)

### 会の動き

中学四十周年に寄付

10月28日  
記念行事の主体となった同窓会  
を通して、十万円を寄贈

新年会 1月31日  
東京新潟県人会館にて  
2面参照

新会員名簿の発行 1月  
設立30周年記念の一貫として発  
行。新年会に出席の皆様には、無  
料で差しあげました。まだ入手さ  
れていない方は、総会の際にお渡  
し申します。又来会されない方で  
ご希望の方は、直接会計部長黒崎  
孝造氏(目黒区目黒本町3-14-1  
16) 電(03-713-0529)まで

#### お申込み下さい。

青巒荘花見の旅 4月10日  
3面参照

当日参加の役員を中心に、総会  
及び来年の30周年事業計画につい  
て相談した。  
広井三代次氏の霊前にて、供養  
同夫人より皆様によりしくと、ご  
挨拶があった。

叙勲を受けられた  
阿部健次氏(昭11年卒)

阿部さんが病歿されたのは昨年  
十二月のことである。六十四歳。  
四十年の長きに亘って国鉄(大  
井工機部)に勤務されていた。そ  
の精励ぶりは、人の模範とするこ  
ろだったという。清水町出身  
正七位瑞宝章勲六等(63年1月)

#### 住所変更

- 大 4 丸山 貴司 167杉並区上荻2-6-8 丸山悠典方  
(395-0614)
- 9 山口 俊治 162新宿区富久町40-5 (山口ヨシ)
- 12 加藤 キヨ 334川口市東本郷1814-6 (浦川方)  
(0482-82-5186)
- 昭 4 平沢 佐和 206多摩市永山3-3-2-504
- 9 堀井 豊作 足立区関原3-46-5 (889-2791)
- 14 五十嵐綾子 214川崎市多摩区堰1-32-7
- 22 吉原 登 247鎌倉市台5-9-2-103

- 昭23 石黒 文雄 238横須賀市鴨居2-20-48-507  
(0468-42-7472)
- 24 山口 イセ 213川崎市宮前区大蔵3-13-10-402
- 29 野崎真知子 221横浜市神奈川区神大寺3-24-19
- 〃 小川 和子 184小金井市貫井北町3-5-23  
(0423-84-7253)

#### 逝 去

- 昭 4 桑原沙記子(62.10.29)71歳 昭10黒崎セキ(62.7.6)
- 昭 8 中溝 フミ(62.3) 〃 広瀬ハナ
- 昭11阿部健次(62.12)ご遺族より、生前の交誼感謝します

辰年を祝う

# 新年の集まり

## 東京新潟県人会館で

昭和63・1・31

真冬とはいえ、穏やかな晴天である。今年も健康で、片貝会の新年会に参加できたことを嬉しく思う。

### 新名簿の発行

昭和55年に発行された会員名簿は、その後の移動で、改訂しなければならぬ時がきていた。今度創立30年を記念して、新しく発行された。参会の皆さんに差し出すというので、出席者もいつもより多かったように思われた。

新春は片貝会とともに予定通り午後一時に開会。



勝又会長は、新年の祝詞を述べたのち、来年迎える三十周年への準備を進めねばならないので、皆さんの協力をぜひお願いしたい、と要望された。

続いて佐藤前会長から「母校を励ます会」に対する日頃の助力についての感謝と、会計の現況を説明して、今後ともよろしく……と挨拶した。

浄照寺から届けられた、懇篤な祝電が披露された後、先輩佐藤正雄さんの音頭で乾杯、楽しい懇親会となった。

待っていました、福引き

みんなが寛いだ頃あいに、恒例の福引きが始まった。大矢幸治さんの細心な準備と、松下利夫さんの鮮やかな進行ぶり、福引きはいっそう賑わいを盛り上げていた。思いがけない特賞を得て、皆さんから祝福される人もあった。

浄照寺から、昨年ひき続き贈られた茶巾も添えられて、いっそう豊かさを増した。楽しかったね。興はいつ尽きることもなかった。いつもの木遣り唄の大合唱とともに、名残りも尽きず、五時に閉会となった。

付記

- 福引きの品々を寄贈下さった方は左の29名です。
- 佐藤正雄、佐藤量八、日下部政子、大矢福次、神林徳次、相崎善次郎、相崎勇次、小川茂雄、幸川とし、神林健次、小宮竹次、黒崎孝造、芝三四司、佐藤彦一、吉原菊枝、西田善作、黒崎音吉、山口光雄、佐藤孝二、荒木ムツ、諸我時夫、藤塚 悟、武藤睦子、小野塚茂、山口ヨシ、丹治きみ、三重塚栄一、勝又 功、広瀬ハナ御遺族
- 又ご祝儀を左の10名様よりいただきました。
- 安達宗吾、佐藤彦一、山口武一郎、堀井豊作、高橋四郎、浅田鉄夫、黒崎 勇、武藤睦子、青木マツエ、故広瀬ハナ
- 合わせて、いつもながらのご厚意を深謝します。
- 出席者 (74名)
- 大正
  - 佐藤正雄、吉原ヤウ、高桑キイ、佐藤量八、水内脩治、大矢福次、加藤キヨ、神林徳次、安達徳太郎、安達宗吾、神林マス、高橋清雄



山口富次、三重塚繁蔵  
○昭和2〜10  
本田政秀、相崎勇次、早川松太郎、小川茂雄、芝 五郎、小野塚マツ、吉井武二、浅田鉄二、日下部政子、藤田睦子、幸川とし、相崎善次郎

## 会員談話室

丸山貴司 (大4)  
昨年から長男の宅に寄偶しています。(5月1日逝去)

石黒佐忠太 (昭4)  
出席を楽しましにしていましてが、体調をくずしたので残念ながら欠席します。

黒崎 勇 (昭8)  
いつもお招きいただき感謝、新年会の景品の一部に、寸志をお送り致します。

大塚文雄 (昭10)

山口ヨシ、丸山 春、山口三郎、本田松次、神林健次、小宮竹次、黒崎孝造、勝又 功、吉原彦作、大矢幸治、芝三四司、山口武一郎、佐藤彦一、堀井豊作、武藤睦子、吉原菊枝、小宮良夫、西田善作、森本比夫

○昭和11〜20  
山口福次、高橋四郎、黒崎音吉、安達保治、浅田鉄夫、山口吉五郎、佐藤広次、小宮秀夫、横山カウ、中島イツ、丹治きみ、佐藤教雄、松下利夫、山田利雄、小宮幸雄、山口光雄、友田正雄

○昭和21〜30  
沼田 愛、相崎富代、佐藤孝一、黒崎 正、荒木ムツ、青木マツエ、山岸慶昭、小野塚茂、三重塚栄一  
○昭和31〜32  
藤塚 悟、諸我時夫、吉井信三

故郷の近況がよくわかり、いつも楽しく読んでいます。(敬称略)

五十嵐綾 (昭14)  
ふるさと・は・今に載っているニュースはいつも懐しく拝見しています。

氣田登美 (昭19)  
今はじき安達会長、吉原叔父などで充足された当時から出席していましたが、会に連れていった私の子供も今は父親に、思い出は尽きません。会報編集のご苦労に感謝しています。

阿部修次 (昭21)

私共は毎年関東地区の新年会を開いて、親睦を確かめています。又片貝の同級とも、出合いの旅を続けています。

児島良子 (昭22)  
丸山フジさんが90歳を過ぎてもお元気だったのに、会報で逝去を知り驚きました。お仕合わせな方であらうと思います。ご冥福をお祈りしています。

新沢須美 (昭24)  
会の運営に尽力されている役員の方々に感謝しています。

高波国男 (昭38)  
いつの日か会に出席できる時を楽しみにしています。

会の活動や、会報発行について左の方々からも感謝のお便りをいただいた。

山口よし (昭2)、平沢佐和 (昭4)、石田貞子 (昭8)、青木富代 (昭17)、山口時男 (昭20)

また、山崎キキさん (大6) は至って元気です、ということであつたが、左の方々からは体調不良で、欠席するとの通知があつた。大矢忠一、松井平均 (大6)、谷内忠太郎 (大8)、石上リヤウ (大10)、渡辺左武郎 (大11)、安部盛治 (大12)、星野三作 (大15)、菅野リヤ (昭2)

# うららの空に、蕾は固く 恒例 箱根山に観桜の旅

青巒荘(4月10、11日)

こんなに暖い冬ですから、四月十日の花は満開を過ぎているかも知れないという新年会の席上での予測であったのに、その後の寒さで、すっかり開花が遅れてしまった。

山麓の桜は、今を盛りと咲きはこつているのに、花見台の蕾は、まだまだ固く、あと二週間後でないと綻びそうにない。

## 花よりだんご

それでも暖い好天に恵まれて、ビールにのどをうるおし、おでんに舌鼓をうって、のんびりとくつろぐことができた。

そして、山を下った。

浴場は装い新たに青巒荘のお風呂が、面目一新した。広い浴場と、明るいガラス越



また、一回は広井三代次さん宅へお伺いし

の光線がふり注いで、身も心もさわやかとなる。

足を少し進めて橋を渡ると、仙崎岩風呂が待っている。ややゆるめであったが、とうとう落下する滝の音を聞きながらの入浴は、まさに仙境に想う思いである。

まだ淡い新緑の美しさも、しきりに旅情をそそる。

## 懇親の夕べ

五時半より懇親会。相崎勇次さんのはからいで、思いがけない福引きのサービスがあった。みんなの顔がほころぶ。

先輩、佐藤正雄さんの舞踊はさすがのもの。年期の深さに感歎の声が出る。みんなで歌って踊って夜の更けるのを忘れて、楽しんだ。

翌日、朝食後はそれぞれのプランによって帰途に着いた。

尚、当日参加した人々によって五月末に開催予定の29回総会についての相談があった。

また30回記念総会については、後日各年度から二名ほどの代表で構成された準備委員会を中心に、進めていくことを申し合わせた。



て、霊前にお参りし、その遺徳を偲ぶことができた。

## 参加者(17名)

- 佐藤正雄、佐藤量八、相崎尚次
- 大矢福次、小宮孝作、三重堀繁蔵
- 相崎勇次、芝 五郎、勝又 功
- 黒崎孝造、佐藤彦一、芝三四司
- 佐藤広次、黒崎 正、太刀川善蔵
- 黒崎 勝、小野塚茂

## さて来年の春は

この催しも、本年度九回目を数える。ここで、これまでの経過を振り返ってみて、思い出のよすがとしたい。

- 55年4月20日 晴 散り始め
- 56年4月12日 曇 満開
- 57年4月11日 晴 満開
- 58年4月15日 曇 満開
- 59年4月15日 曇 蕾固し
- 60年4月14日 晴 散り始め
- 61年4月13日 晴 満開
- 62年4月12日 雨、山に残雪
- 63年4月10日 晴 蕾固し

# ふるさと・余聞

市議定数はこれでよいから五年前に、それまで二十八名の定数であったのを、二十五名に減員となった。

ところが昨年の選挙では、定員数しか立候補者がなく、無投票で全員が当選となった。そういうこともあって、更に二名減員して、二十三名にしては、との声があった。

だが、結局現在のままということで一応落着いた。

公民館長に安達精二氏  
これまで吉田一雄氏が公民館長であったが、こんど芝町の安達精二氏に。小島屋さん。一昨年末で市役所におられたが、停年退職されていた。

長岡から季刊されている「北方文学」37号に、小園町の高橋実さんが、長文の「やせかまど」評論を載せ、注目を浴びている。これまでに、このような意見を發表されたものはなかった。「北越雷譜」に比肩されるほどの内容を持ちながら、社会的評価が十分ではない、と歎き、今後も一層の研究を期待したい、と述べている。高橋氏は柏崎養護高校教諭片貝人としても、大いに意を強くした次第である。

## 母校を励ます会の動き・報告とお礼

### 着実に、力強く

### 六年間の歩み

会員の皆様の温かいご支援により、たゆむことなくここに六年目を迎えました。更に思いを新たに、改めて感謝申しあげます。この秋の講演会にお願いする講師は、

- 大正 佐藤正雄、神林徳次、安達徳太郎
- 安達宗吾
- 昭和2、10 小川茂雄、芝 五郎、小塚塚マツ
- 幸川とし、堀井豊作、日下部政子
- 武藤睦子、相崎善次郎、鈴村より子
- 昭和11、20 高橋四郎、山口福次、黒崎音吉
- 内海光子、佐藤敏雄、松下利夫
- 小宮幸雄、浅田栄三
- 昭和21、30 黒崎 正、野田正輝、小塚塚正司

只今、交渉中で近くご承諾いただけるものと思っております。その実施内容については次回のお会で、くわしくお知らせさせていただきます。尚五十七年秋に発足以来今日までの歩みについては会計報告を通してその大様が、ご理解いただけることと思っております。今後とも、変わらぬご助力をお願いいたします。

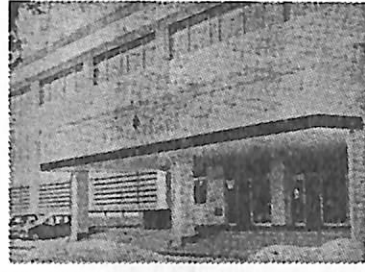
い申しあげるばかりです。本年一月から四月末までに、ご寄付いただきました方々は、左記の通りです。ほんとうにありがとうございます。

母校を励ます会・会計報告 (自至)		昭和58.5.1	昭和63.4.30
収入	¥2,028,789	支出	¥1,110,847
基金(延521名)	1,895,200	寄贈図書	1,000,000(5回)
基利	133,589	講演会	60,000(6回)
		印刷・郵券	50,847
前回以後の収入・支出 (昭和63.1.1~63.4.30)			
基金(33名)	88,000	郵券	1,600
基利	利息(割引債・銀行)6,278		(現在高¥917,942)

石川春子、三重堀栄一、野崎真知子  
○昭和31、34 藤塚 悟、吉井信三、横山美江子  
諸我時夫、小宮成夫、黒崎芳雄  
以上33名(敬称略)  
総額八万八〇〇〇円

東京片貝会々計報告 (自昭和62.4.1 至昭和63.3.31)

収入総額	2,534,387	支出総額	2,534,387
繰越金	357,855	総会費	309,730
別途積立金	200,000	(お車代 20,000 みやげ代 14,400 お会館支払 275,300)	
積立金解約	200,000	新年会費	325,050
年会費	462,000	(福引諸費 2,000 会館払 323,050)	
総会費	270,000	印刷費	36,149
新年会費	365,000	コピー代	
寄付祝儀	181,000	会議費	18,592
利息	30,632	通信費	139,510
名簿広告他	467,900	会報費(35号 36号)	160,230
		交際費	14,000
上記の通り報告致します		中学校40周年寄付	100,000
昭和63.3.31		振替手数料	11,300
会計部長 黒崎 孝造		別途積立金	200,000
〃副部長 山口武一郎		事務費	9,390
上記は適正且つ正確である		名簿支払	643,726
ことを認めます。		次年度繰越金	566,710
会計監査 小川 茂雄			
大矢 幸治			
高橋 四郎			



母校の近況

片貝小、改築工事(二期) 長い間の念願だった改築工事がこの二月二十日に完了した。引越し作業には、PTAの方々百名が奉仕活動をして、一日がかりで終了した。 今度の校舎は鉄筋三階建、教室六、図書室、視聴覚室、家庭科教室と教務室である。新校舎で勉強できる児童達の目の輝きは、ひとりで終了した。

郷里にゆかれる機会があったらぜひ訪問したいものである。学校でも、それを歓迎している。 中学校の校長先生 異動 着任以来三年間動められ、会のために何かとお世話になった。中学の桜井澄雄校長先生が長岡へ

ふるさと・は・今

栄転になり、代わりに古志郡虫亀小学校の佐久間昭夫先生がお出でになった。 小学校の成田実先生は長岡の上川西小へ栄転になり、三条小学校の木村秀男先生が、新教頭として着任になった。 これから母校を励ます会を通して、お世話になることが多いと思う。よろしくお願い致します。 浅原神社の初詣 初詣のことを、片貝では二年詣りといっているようだ。 どこでも〇時を中心に、除夜の鐘をつくが、片貝では名物の花火を掲げている。それが珍しいというので、遠くからも参拝者がたくさん見えた。 小千谷の二荒神社に匹敵するほどの人出で、二千四百人もあったという。浅原神社の神威も、近年とみに高まってきた。

花火も間断なく上がり、気分高潮。やがて四十二歳になった十五誓会の福餅まきがあり、最後に賽の神に点火されて、火は天をこがし続けた。 三之町では、通りに五米の雪で作ったジャンボろうそくを立て、往き返りの町民に、甘酒と油揚げをサービスした。 県下最大規模と自認しているがまことに目を見張るものがあった。一度行ってみたいものである。

竹の子会ができた 町の三十代、四十代の青壮年が中心になって、片貝町の活性化をはかる、として設立された。 先ず手始めに「片貝町協議会を学ぶ」をテーマに取りあげて、協議会の在り方、これからの運営について勉強会を開いた。 今後の活躍が期待される。 会長は沼田の本田正史氏、ほか副会長、事務局長などで構成されている。

賽の神

小正月の行事として、少年時代の夢をかきたてる。小千谷市内では、各地域に分散して、九十五箇所、賽の神を焚いた。 片貝では、これを神社の境内に集結して焚くようになったのは近年のこと。 雪が少なかったので、成人になった成友会の面々が中心になって夜通し雪集めに懸命だった。 十五日午後二時半から、小若連によるモックラモチ。 福餅まきは、商工連合と煙火協会の主催である。 夜は境内にろうそくが林立する

町の話題

春を呼ぶ雪原まつり

3月19、21日 小栗田原を中心に三百間行われた。「凧上げ大会」「歌謡ショウ」「モデル撮影会」「バラクライダーの飛行」など多彩の催しで、湧きたった。 何といっても熱気球の上がる二十日には、四万人の人が参集し



あとがき 総会前が、例年長い休日になるので、印刷会社が休みになってしまひ、いつも発行が遅れ気味で、気遣いの多いことである。 お手許に届く日がおそくなれば予定を組みむに、支障がありはしないか。 そればそれとして、どうか万障を差し繰ってご出席下さい。私共としては、ひたすらそのことを念願するのみです。